

⑨日本国特許庁 (JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報 (U)

昭63- 96140

⑫Int.Cl.¹

E 04 F 13/08

識別記号

厅内整理番号

S-7130-2E

⑬公開 昭和63年(1988)6月21日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭考案の名称 内装パネルの接続構造

⑮実 願 昭61-192830

⑯出 願 昭61(1986)12月15日

⑰考案者 間瀬 清 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

⑰考案者 島ノ江 繁吉 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

⑰出願人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地

⑰代理人 弁理士 石田 長七

明細書

1. 考案の名称

内装パネルの接続構造

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) バイプ状のパネル枠に大径孔と小径孔とが連通しただるま状の取付孔をバイプ内外に貫通させて形成し、隣接する内装パネルの隣接端部におけるパネル枠を接続するショイナーに一对の接続突起を突設し、接続突起の先端部を大径孔より小さく小径孔より大きい大径部に形成するとともに接続突起の基端部を大径孔より小さく小径孔より大きい小径部に形成し、ショイナーの接続突起の小径部にパネル枠の取付孔の小径孔を係合して成る内装パネルの接続構造。

3. 考案の詳細な説明

【技術分野】

本考案は、内装パネルの接続構造に関し、詳しくは内装パネルの接続を容易になそうとする技術に関する。

448

-1-

実開63-96140

〔背景技術〕

従来、例えば浴室ユニット等の設備ユニットを組み立て施工するのに、その内装パネルの屋外側からの操作にて内装パネルを釘打ちやボルト止め等にて支柱としてのジョイナーに接続するものであり、このような屋外側からの操作にて内装パネルを接続するのに、コンクリート製の外壁のような建物の軸体が出来上がったのちにおいては、屋外側からの接続操作に際して、その作業空間を確保するのがスペース的に難しく、又、ボルトやビス等の接続具を要し、これらが落下しやすい等してその接続が面倒になる等の問題があった。

〔考案の目的〕

本考案はこのような問題に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、ボルトやビス等の接続具を要することなく、内装パネルの外側に無駄なスペースを生じさせることもなく、内装パネルを容易に接続することができる内装パネルの接続構造を提供することにある。

〔考案の開示〕

449

本考案の内装パネルの接続構造は、パイプ状のパネル枠1に大径孔2と小径孔3とが連通しただるま状の取付孔4をパイプ内外に貫通させて形成し、隣接する内装パネル5,5の隣接端部におけるパネル枠1,1を接続するジョイナー6に一对の接続突起7,7を突設し、接続突起7の先端部を大径孔2より小さく小径孔3より大きい大径部8に形成するとともに接続突起7の基端部を大径孔2より小さく小径孔3より大きい小径部9に形成し、ジョイナー6の接続突起7の小径部9にパネル枠1の取付孔4の小径孔3を係合して成ることを特徴とするものであり、このように構成することによって、上記目的を達成したものである。つまり、ジョイナー6の接続突起7をパネル枠1の取付孔4の大径孔2を挿合し、そののちジョイナー6を移動させて取付孔4の小径孔3を接続突起7の小径部9に係合させることで、内装パネル5をその外側に無駄な作業スペースを生じさせることなく、ジョイナー6を内側からの操作にて接続を行うことができ、ボルトやビスのような接続

具を使用することなく、その接続を容易簡単に行うことができるようとしたものである。

以下本考案の実施例を図面に基づいて詳述する。

例えば浴室の壁となる内装パネル5は角パイプ材を口字状に枠組みしたパネル枠1に内装板10を張設したものであり、内装パネル5の両側のパネル枠1に大径孔2とこれの下方に小径孔3とが連通しただるま状の取付孔4をパイプ内外に貫通させて形成してある。隣接する内装パネル5,5の隣接端部におけるパネル枠1,1を接続するジョイナー6には一対の接続突起7,7を突設してある。この接続突起7はその先端部を大径孔2より小さく小径孔3より大きい大径部8に形成するとともに接続突起7の基端部を大径孔2より小さく小径孔3より大きい小径部9に形成してある。ジョイナー6は第2図のようなチャンネル状か第3図のようなアングル状である。しかして上下方向にジョイナー6を配設し、このジョイナー6を内装パネル5の上方の天井部において持つてパネル枠1の取付孔4の大径孔2にジョイナー6の接続突

起 7 を遊合し、ジョイナー 6 をハンマー等にて打つて押下げて、接続突起 7 の小径部 9 を取付孔 4 の小径孔 3 に係合して、内装パネル 5, 5 を接続するのである。

このように、ジョイナー 6 の接続突起 7 をパネル枠 1 の取付孔 4 の大径孔 2 に挿合し、そののちジョイナー 6 を下方に移動させて取付孔 4 の小径孔 3 に接続突起 7 の小径部 9 を係合させて、内装パネル 5 の上方からのジョイナー 6 の押下げ操作にて、内装パネル 5 の外側に廻らなくても内側からの操作にて接続を行うのであり、ボルトやビスのような接続具を使用することなく、かつ内装パネル 5 の外側に無駄なスペースを生じさせることなく、その接続を容易簡単に行うのである。

接続突起 7 は第 4 図に示すように、ジョイナー 6 にビス 11 をナット 12 にて取付けたものや、第 5 図に示すように、合成樹脂又はアルミニウム製の突起部材をジョイナー 6 の通孔に挿通し、挿通先端を大径にかしめる等種々設計変更可能である。又、接続突起 7 は円錐状の傾斜面 13 が形成

され、この傾斜面13にて内装パネル5をジョイナー6側に引き寄せることができるようにしてある。

[考案の効果]

以上要するに本考案は、パイプ状のパネル棒に大径孔と小径孔とが連通しただるま状の取付孔をパイプ内外に貫通させて形成し、隣接する内装パネルの隣接端部におけるパネル棒を接続するジョイナーに一对の接続突起を突設し、接続突起の先端部を大径孔より小さく小径孔より大きい大径部に形成するとともに接続突起の基端部を大径孔より小さく小径孔より大きい小径部に形成し、ジョイナーの接続突起の小径部にパネル棒の取付孔の小径孔を係合してあから、つまり、ジョイナーの接続突起をパネル棒の取付孔の大径孔に挿合し、その後ジョイナーを移動させて取付孔の小径孔を接続突起の小径部に係合させることで、内装パネルをその外側に無駄な作業スペースを生じさせることなく、ジョイナーを内側からの操作にて接続を行うことができ、ボルトやビスのような接続

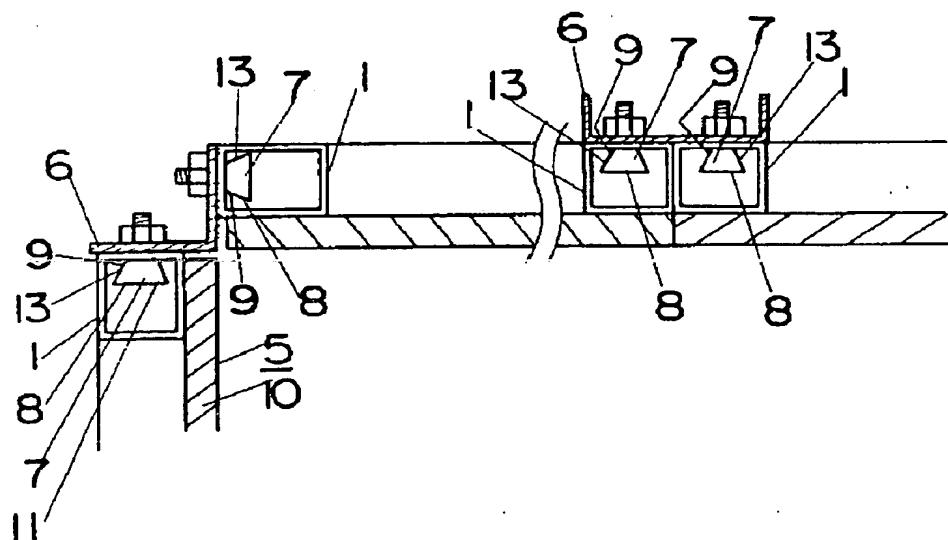
具を使用することなく、その接続を容易簡単に行
うことができるという利点がある。

4. 図面の簡単な説明

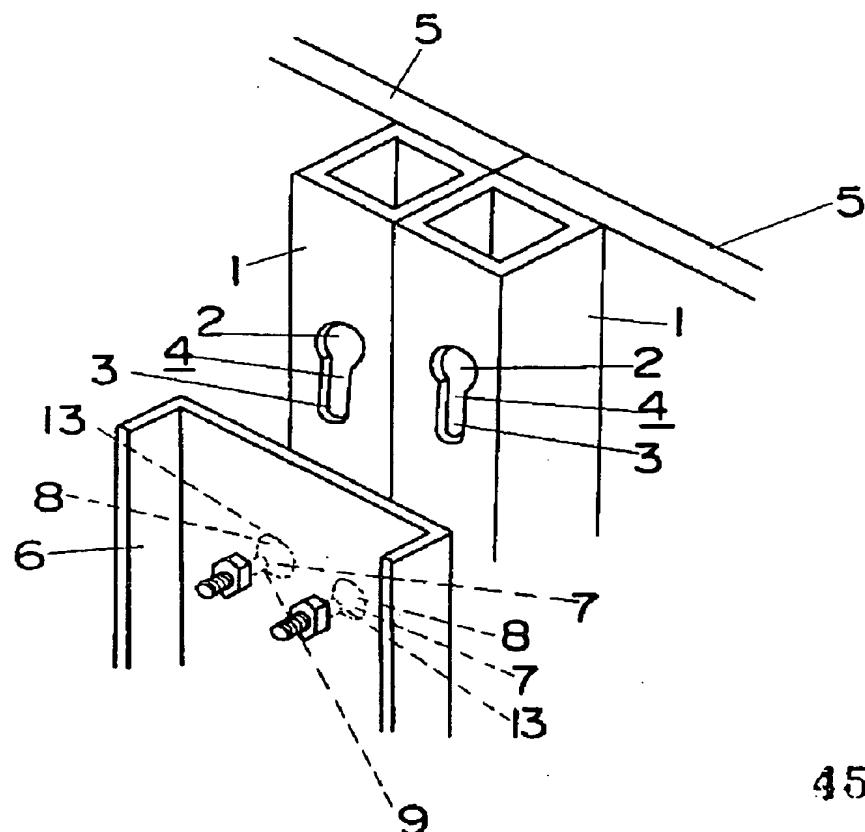
第1図は本考案の一実施例の平断面図、第2図
及び第3図は同上の接続箇所の分解斜視図、第4
図は同上のコーナ部に使用するジョイナーの平面
図、第5図は同上の他の実施例の平面図であり、
1はパネル枠、2は大径孔、3は小径孔、4は取
付孔、5は内装パネル、6はジョイナー、7は接
続突起、8は大径部、9は小径部である。

代理人 弁理士 石 田 長 七

第一回



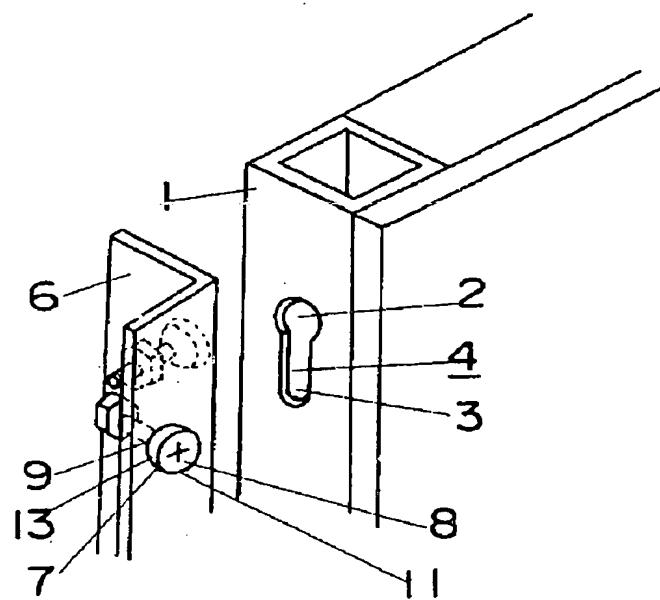
第2圖



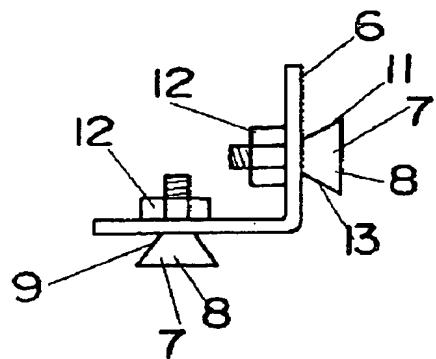
455

実測 G3-S6140

第3図



第4図



第5図

